

尊と為せども、其の義に於ては天台一家より出でたり。草木の上に色心因果を置かずんば、木画の像を本尊と持み奉るも無益なり。疑いて云く、草木国土の上の十如是、因果の二法は、何れの文に出でたるや。答えて曰く、止観第五に云く、「国土世間亦十種の法を具す。所以悪国土、相・性・体・力」等云云。釈籤第六に云く、「相は唯色に在り、性は唯心に在り、体・力・作・縁は義、色心を兼ね。因果は唯心、報は唯色に在り」等云云。金鉉論に云く、「乃ち是れ一草一木一礫一塵、各一仏性あり、各一因果あり。縁・了を具足す」等云云。

問うて曰く、出処既に之を聞く。觀心の心如何。答えて曰く、觀心とは、我が己心を觀じて十法界を見る。是を觀心と云うなり。譬えば他人の六根を見ると雖も、未だ自面の六根を見ざれば、自具の六根を知らず。明鏡に向うの時、始めて自具の六根を見るが如し。設い諸經の中に、処々に六道並に四聖を載すと雖も、法花經並に天台大師所述の摩訶止觀等の明鏡を見ざれば、自具の十界・百界・千如・一念三千を知らざるなり。問うて曰く、法花經は何れの文ぞ。天台の釈は如何。答えて曰く、法花經第一方便品に云く、「衆生をして仏知見を開かしめんと欲す」等云云。是れ九界所具の仏界なり。寿量品に云く、「是の如く我成仏してより已來甚だ大に久遠なり。寿命無量阿僧祇劫常住にして滅せず。諸の善男子、我本菩薩の道を行じて成ぜし所の寿命、今猶未だ尽きず。復上の數に倍せり」等云云。此の經文は仏界所具の九界なり。經に云く、「提婆達多、乃至、天王如来」等云云。地獄界所具の仏界なり。經に云く、「一名藍婆、乃至、汝等但能く法花の名を持つ者を護る、福量るべからず」等云云。是れ餓鬼界所具